

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月13日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.55】

本間氏は松崎氏が「正当な革マル派は我々だ」と述べたと証言！

前号では、東労組元中央執行委員の本間雄治氏（現JR労組委員長）が「週刊現代裁判」（2009年3月3日）の証人尋問で、東労組前委員長の石川尚吾氏が「反スタは忘れるな」とお互い革マル同士という立場を前提に話をしたと証言したことを紹介した。本間氏の証言では、さらに、東労組元会長の松崎明氏から、革マル派の方針について話を聞いたという、以下の驚くべき内容も明らかにされた。

（被告側代理人）松崎明さんから、革マル派との関係について話を聞いたことがありますか。（本間）あります。（代理人）どこでお聞きになったことがありますか。（本間）伊東のさつき会館です。（代理人）もしご記憶でしたら結構ですが、いつ頃だったのかという、覚えているところがありますか。（本間）2000年後半か中頃くらいまでですかね。（代理人）そうすると、JR内革マルと革マル中央との間の対立があった後ということですか。（本間）そうです。（代理人）松崎さんから聞いたお話というのは、どんな話だったですか。（本間）党がおかしくなったと、本来の正当なといいますが、正しい理論でやっているのは我々だという中身を聞いたことを記憶しております。（代理人）党というのは、革マル派のことですか。（本間）そうです。（代理人）正当な革マルだということをおっしゃったんですか。（本間）そういう内容だと思います。（代理人）そういうお話というのは、どういった機会にされたんでしょうか。（本間）学習会です。（代理人）さつき会館で学習会がされたと。（本間）そうです。（代理人）そうすると、酒の上の話とかそういうのではなく、きちんとした学習の場で、その話がなされたということですね。（本間）そうです。（代理人）それを聞いたのは、本間さん以外にどんな方がいらしたのか、ご記憶の範囲で教えていただけますか。（本間）何度も聞いていますけれども、私もあまり定かではありませんが、今名前に挙がっていた石川さんはおりました。（代理人）それは記憶があると。（本間）はい。（代理人）そういう話をするということは、松崎さん自身も、そのお話の時点では革マル派だったということなんですか。（本間）そういう認識です。

2000年は、革マル派が機関紙「解放」などでJR総連・東労組を非難し、九州労大量脱退事件や坂入事件など、両者の「対立」を窺わせる奇怪な事件が発生した年だ。本間証言からみて、伊東さつき会館で行われていた学習会は、JR革マルのものであることは疑いが無い。ここで松崎氏が述べた「党がおかしくなった」「正しい理論でやっているのは我々だ」とは、「正当な革マルは党中央ではなくJR革マルだ」という意味に他ならないだろう。この証言が事実なら、松崎氏はJR革マルを率いる革マル派最高幹部であることになる！

JR革マル派の学習会に石川氏も出席！他には誰がいたのか？

学習会には、相当高いランクの活動家が参加していた可能性が高い。本間氏は学習会の参加者として石川氏の名前を挙げたが、他にもJR総連関係の役員らが多数いるはずだ。また、松崎氏の他にも講師はいたのか、何を学習していたのかなど、興味は尽きない。革マルの党中央とJR革マルとの話し合い（No.46、47 参照）への参加者を含め、今後、「JR革マル派43人リスト」等の裁判を通じ、実態がさらに明らかになるだろう。

なお、松崎氏については、後ほど、詳細に検証を進めていくこととする。